

国際協力セミナー NGOで働くとは？ 日本のNGO強化戦略

東京大学大学院 新領域創生科学研究科
国際協力専攻

2013年7月19日
伊藤 衆子（JANIC）



地球 × 未来、あなたと今できること。

NGOを支援するNGO
国際協力NGOセンター(JANIC)

Japan NGO Center for International Cooperation

本日の講義の内容

0. 自己紹介

1. NGOで働くとは

- ・ 経済・倫理・将来性
- ・ 若いスタッフの志
- ・ NGOで働くことの良い点、悪い点

2. 日本のNGOの能力強化

- ・ 日本のNGOの強み、弱み
- ・ 日本のNGOの能力強化



1 NGOで働くとは

- ① 日本のNGOの活動
- ② 経済面・倫理面・将来性
- ③ 若い職員の志
- ④ NGOで働くことの良い点、悪い点

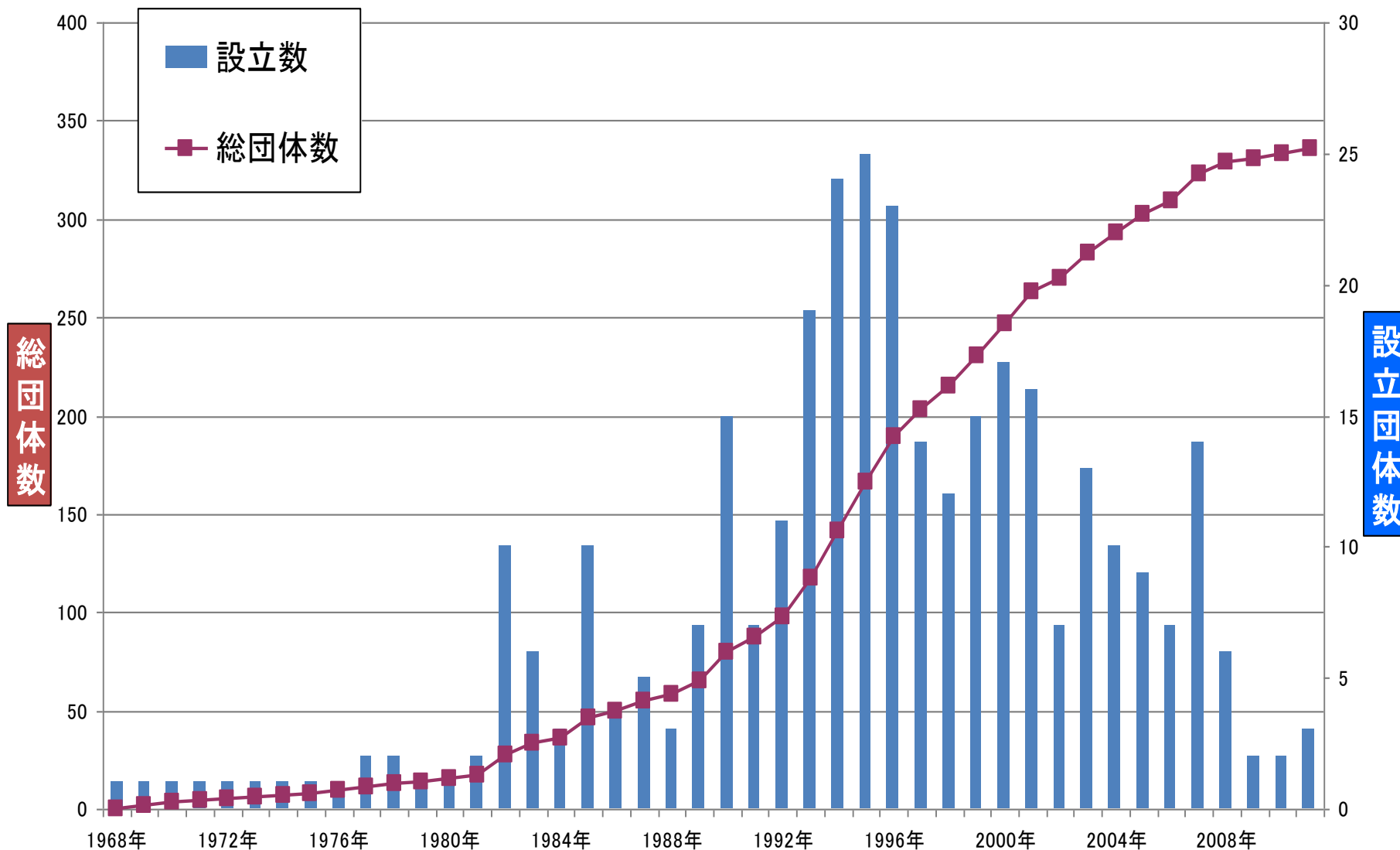
1. NGOで働くとは

NGO/NPOのイメージは？

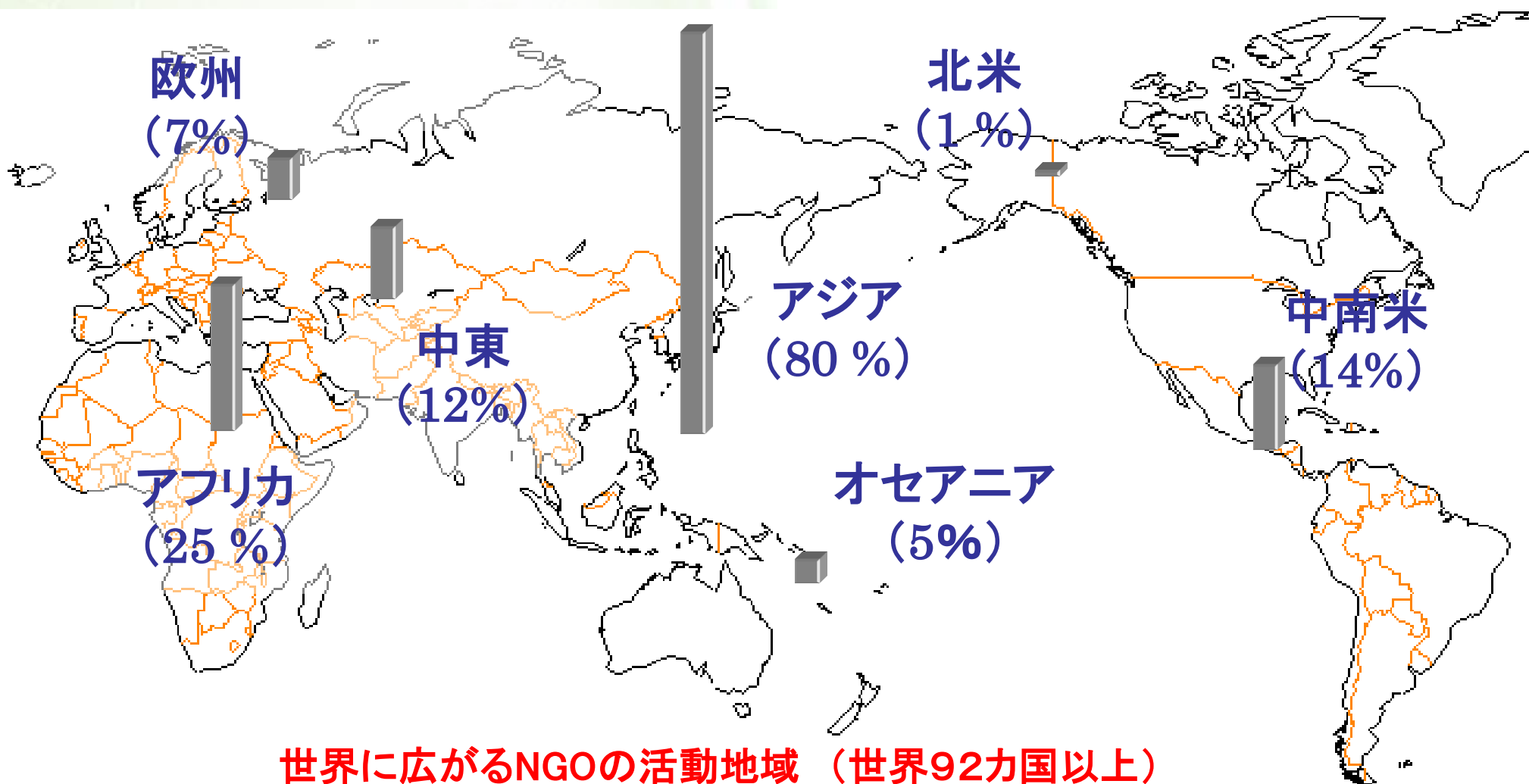
多様なNGO

日本のNGO*の設立時期と団体数の推移

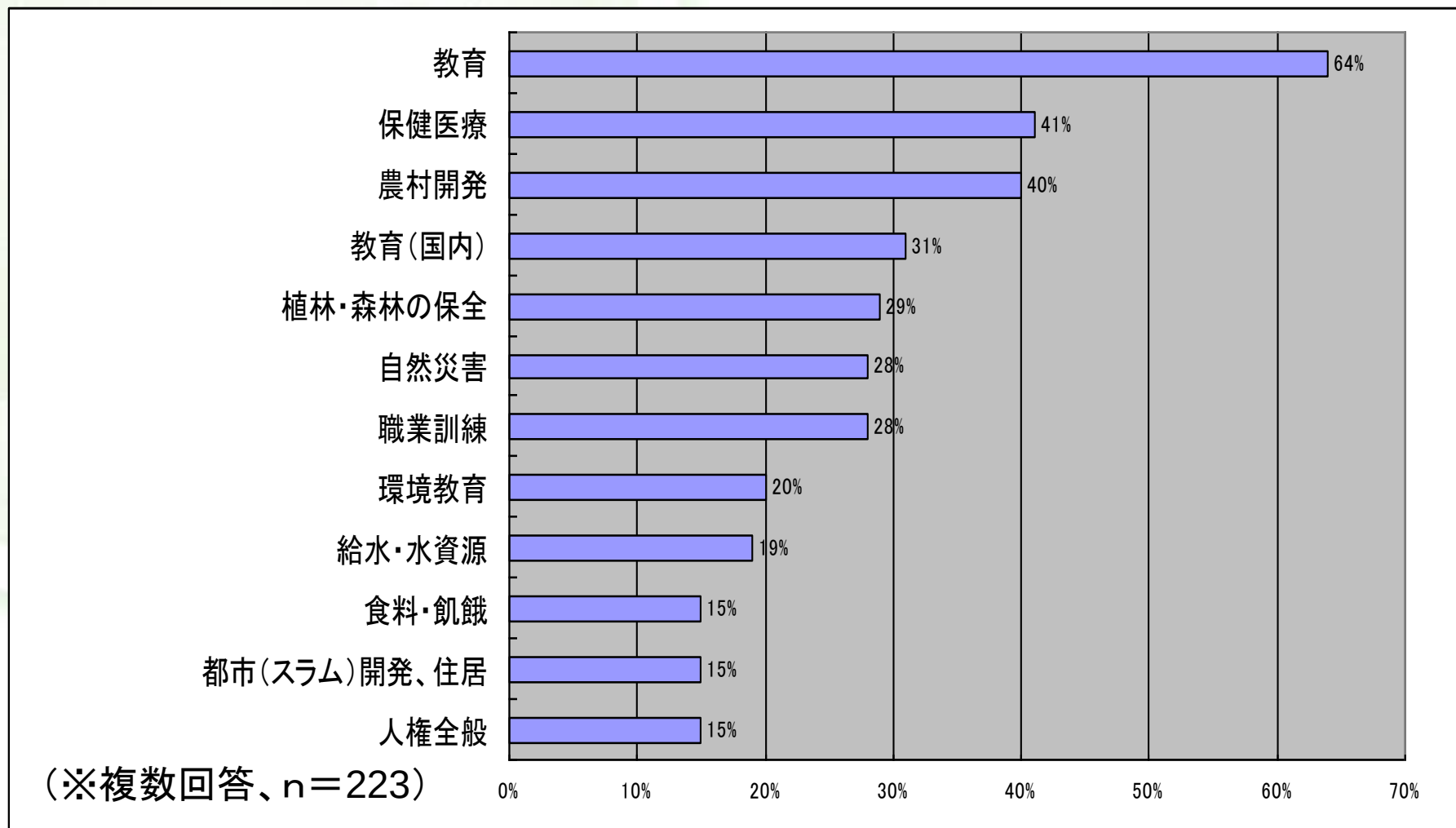
*JANICのHP内NGOダイレクトリー
(2012年11月30日) 掲載を元に作成
→<http://www.janic.org/directory/>



①日本のNGOの活動：地域



①日本のNGOの活動：分野(33分野 上位10位)



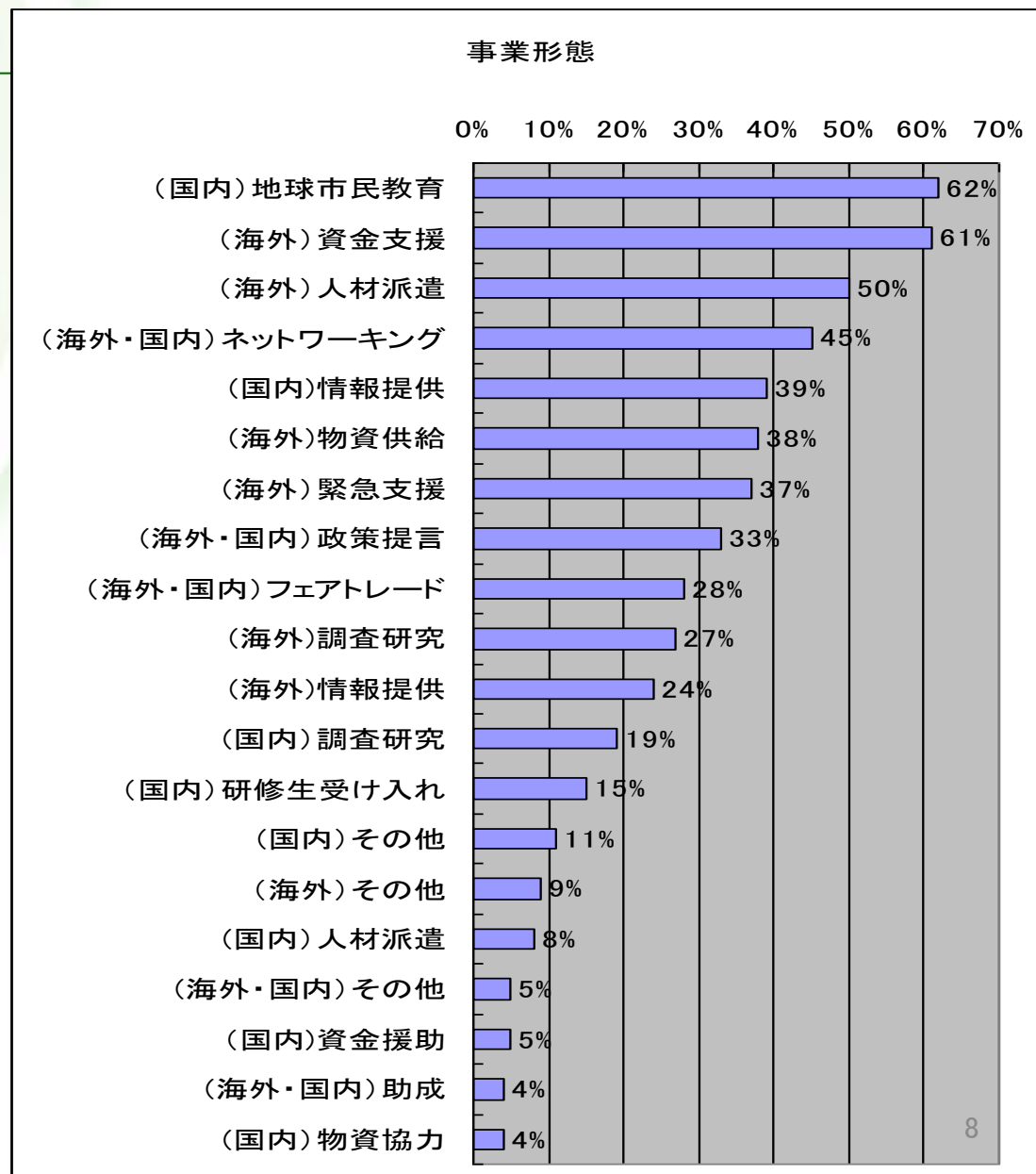
NGOの事業分野を海外・国内それぞれ9分類33分野に細分化した際に、最も注力している活動の上位10位までを表示。

出典：『NGOデータブック2011』

①日本NGO:協力形態

(※複数回答、n=233)

出典:『NGOデータブック2011』



NGOで働くとは ②経済面：日本NGOの財政規模

・1億円未満：82%

・2千万円未満：51%

・1億円以上： 18%

1億～2億円未満： 46%

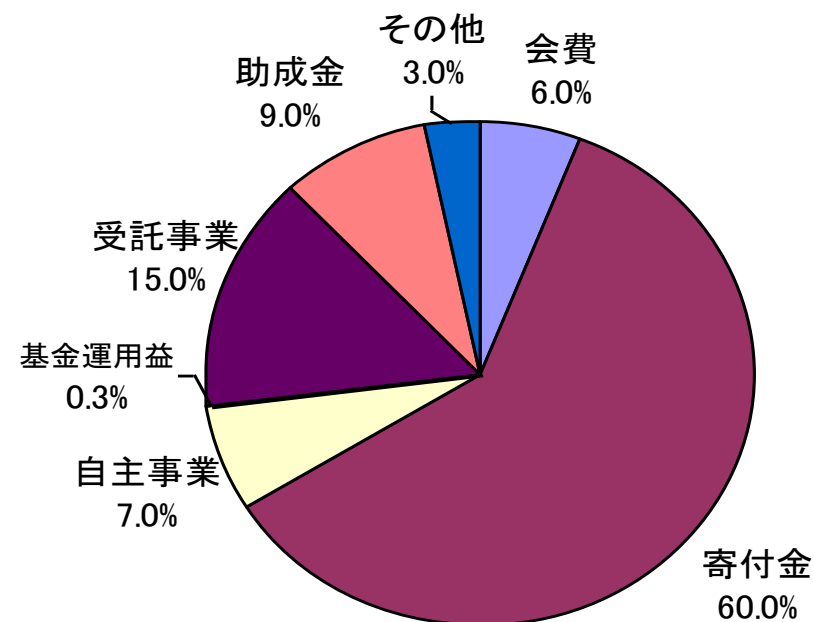
10億円以上： 12%

<NGO職員数> 総数： 3687人

1 団体職員数

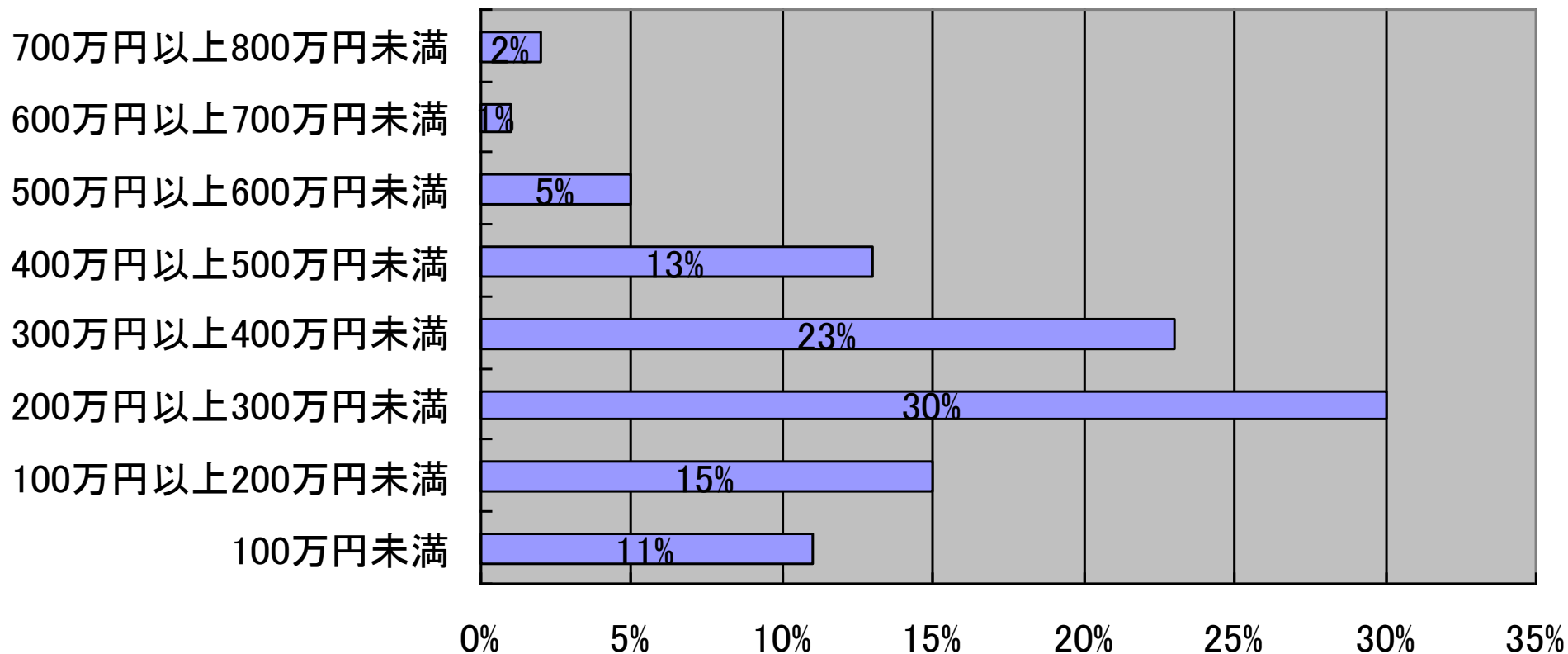
20人以下： 87.1%

100人以上： 1.7%



出典：『NGOデータブック2011』

NGOで働くとは ②経済面：給与

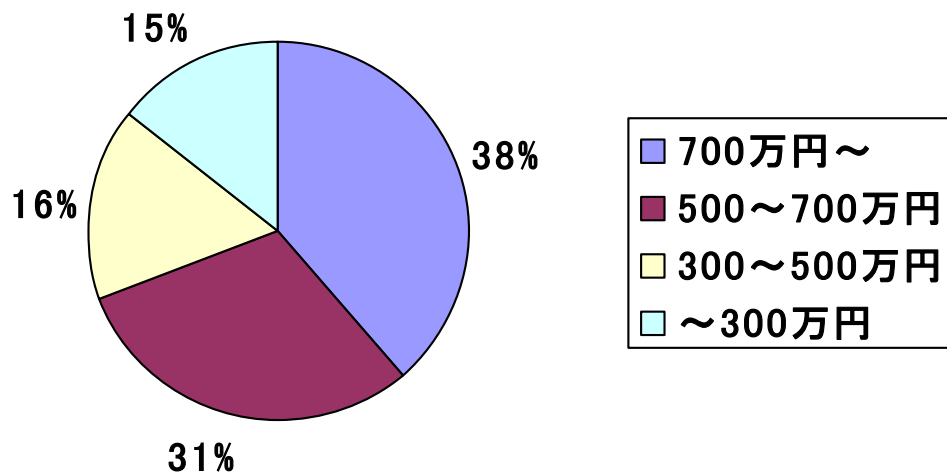


(※専従・非専従含む)

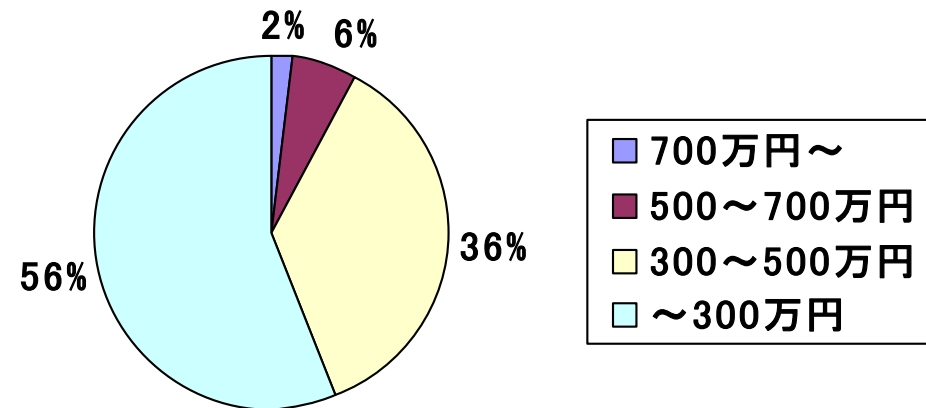
出展：『NGOデータブック2011』
10

NGOで働くとは ②経済面：給与

民間企業

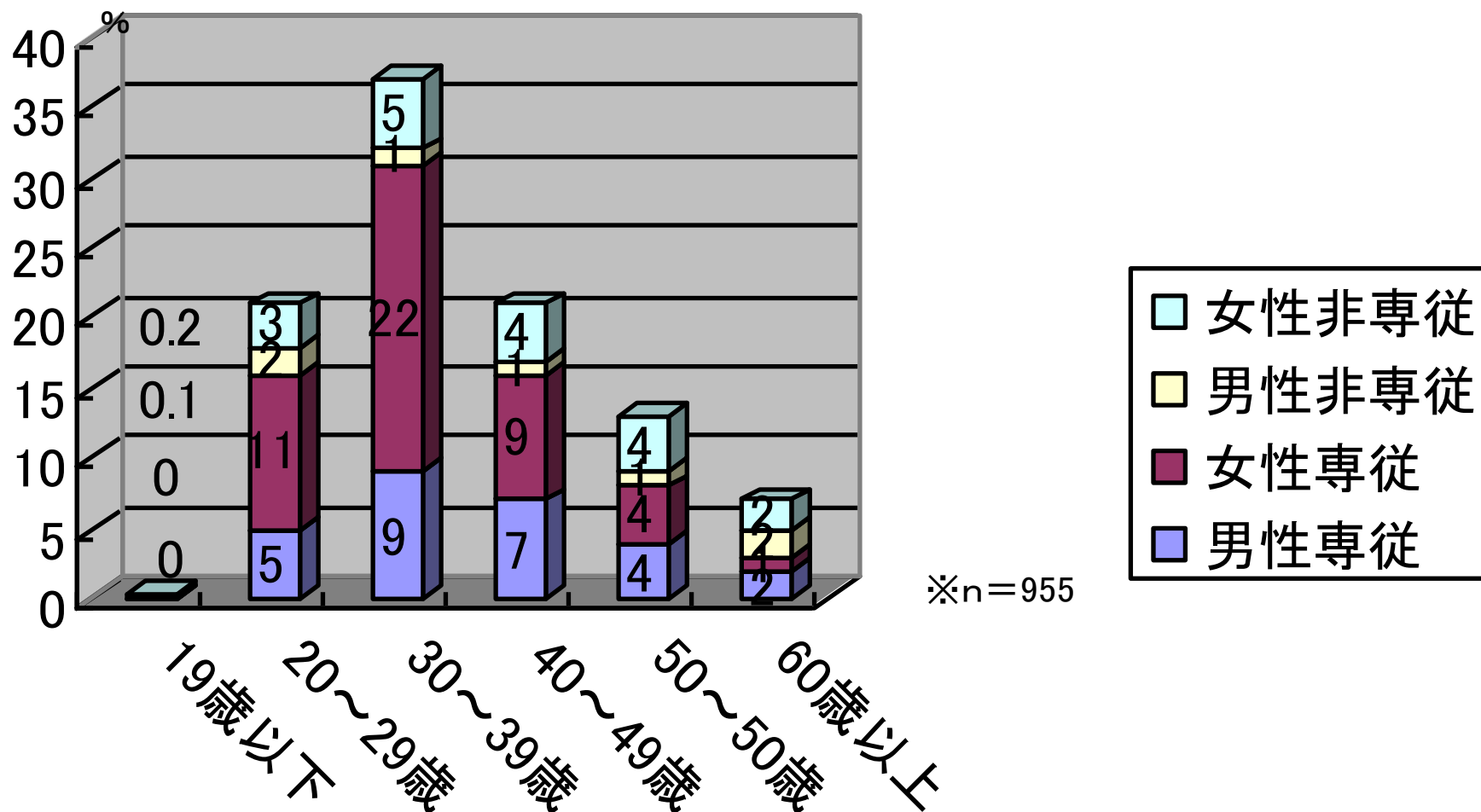


NGO



国税庁『民間給与実態統計調査』（平成19年（2007年））と『NGOデータブック2011』より作成

NGOで働くとは ②スタッフの男女別・年齢別構成

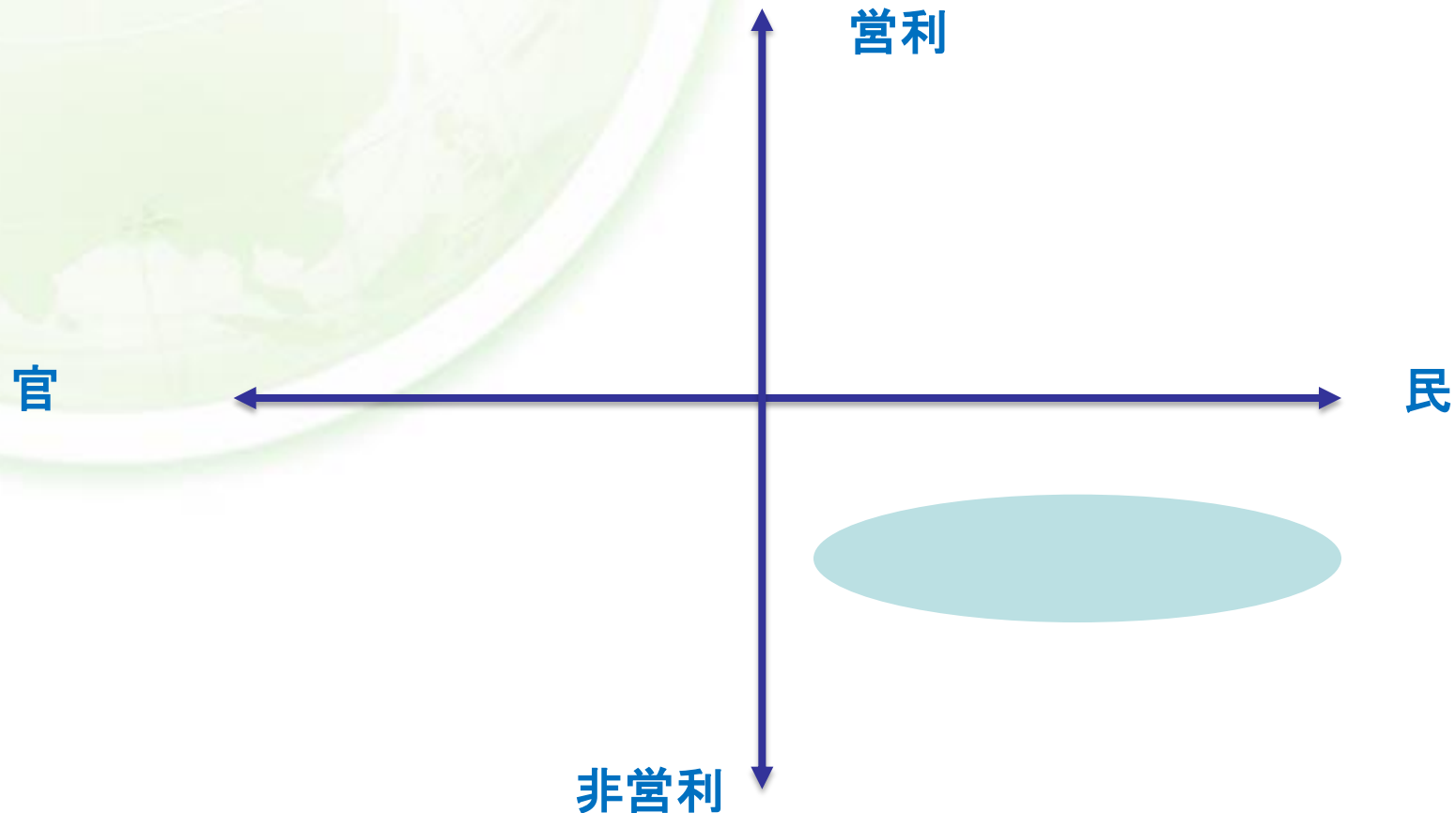


NGOで働くとは ②倫理面：就職をめぐる状況

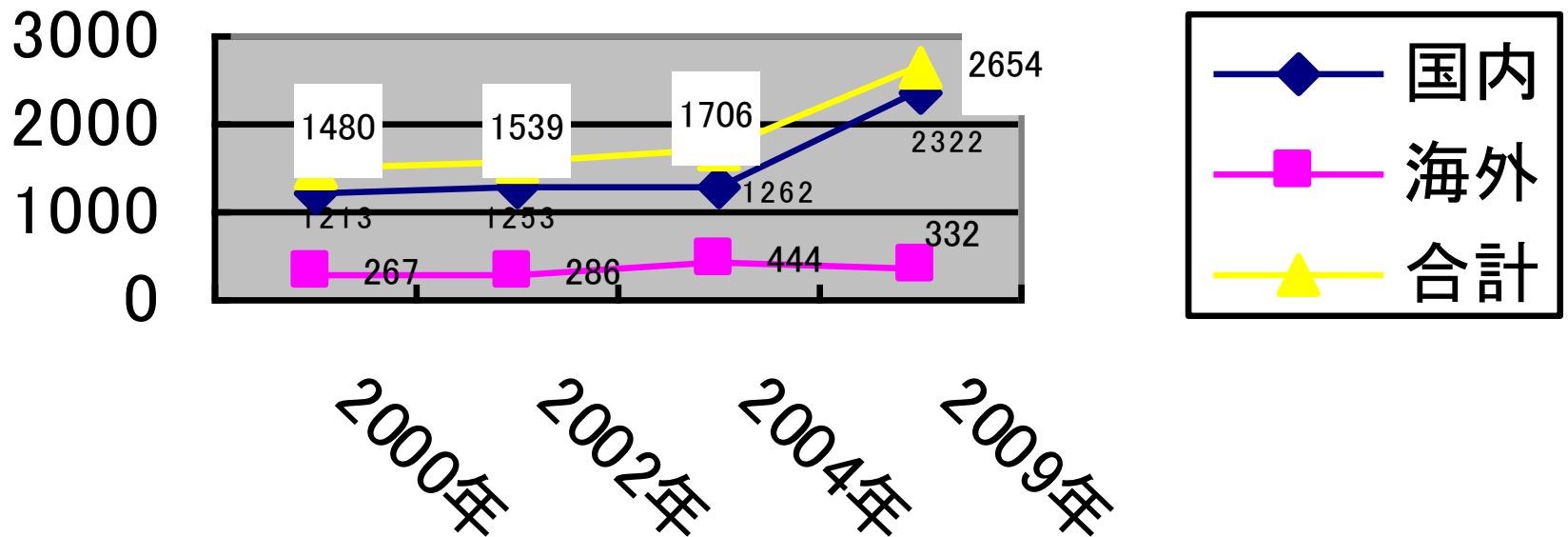
- ◆「社会を変えたい」「社会の役に立ちたい」
- ◆自分がやる、自分たちでやるマインド
- ◆草の根の支援がしたい。人々のエンパメントがしたい。
- ◆良いことをしている、自由な雰囲気、営利追求でない
（“憧れ派”と“お金儲け嫌い派”の増加）
- ◆倍率は職種にもよるが10倍～60倍（JANIC実績）

NGOで働くとは ②将来性

- ◆市民力
- ◆新しいアイデア・取り組み



NGOで働くとは ②将来性:スタッフ数の推移

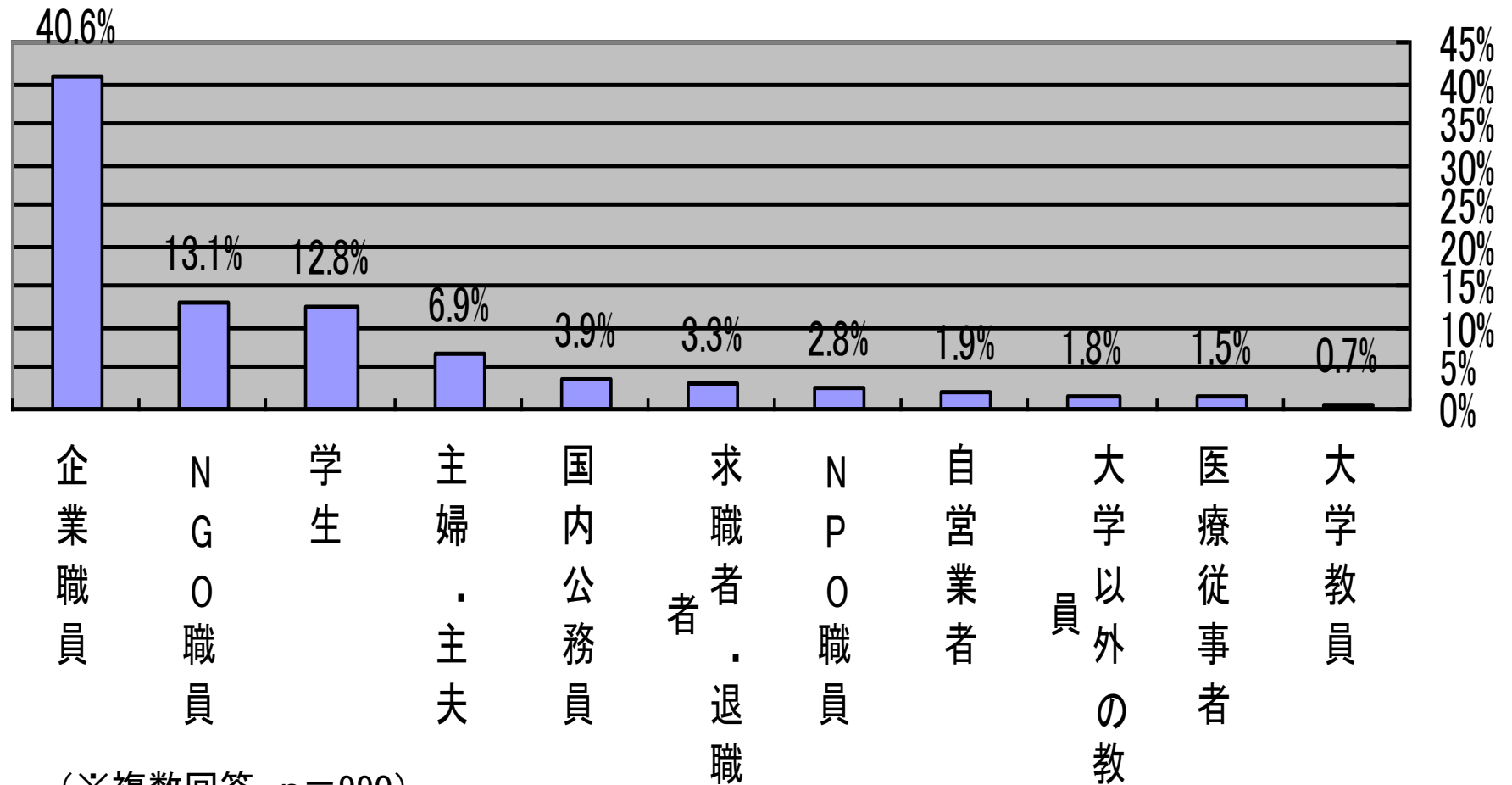


※調査年度ごとの母数団体およびサンプル団体数が異なる。

※海外職員には、現地で採用された職員は含まない。

出典:『NGOデータブック2011』

NGOで働くとは ②将来性：有給スタッフの職歴



(※複数回答、n=990)

NGOで働くとは ③若いスタッフの志

DVD参照



NGOで働くとは ③NGOで働くよい点・悪い点

多様であり、一概には言えないが...

GOOD

達成感: 人の未来の選択肢・可能性を広げる

充実感: 社会を変える力となる

新しい価値の創造

自分の成長: グローバルな視点・体験

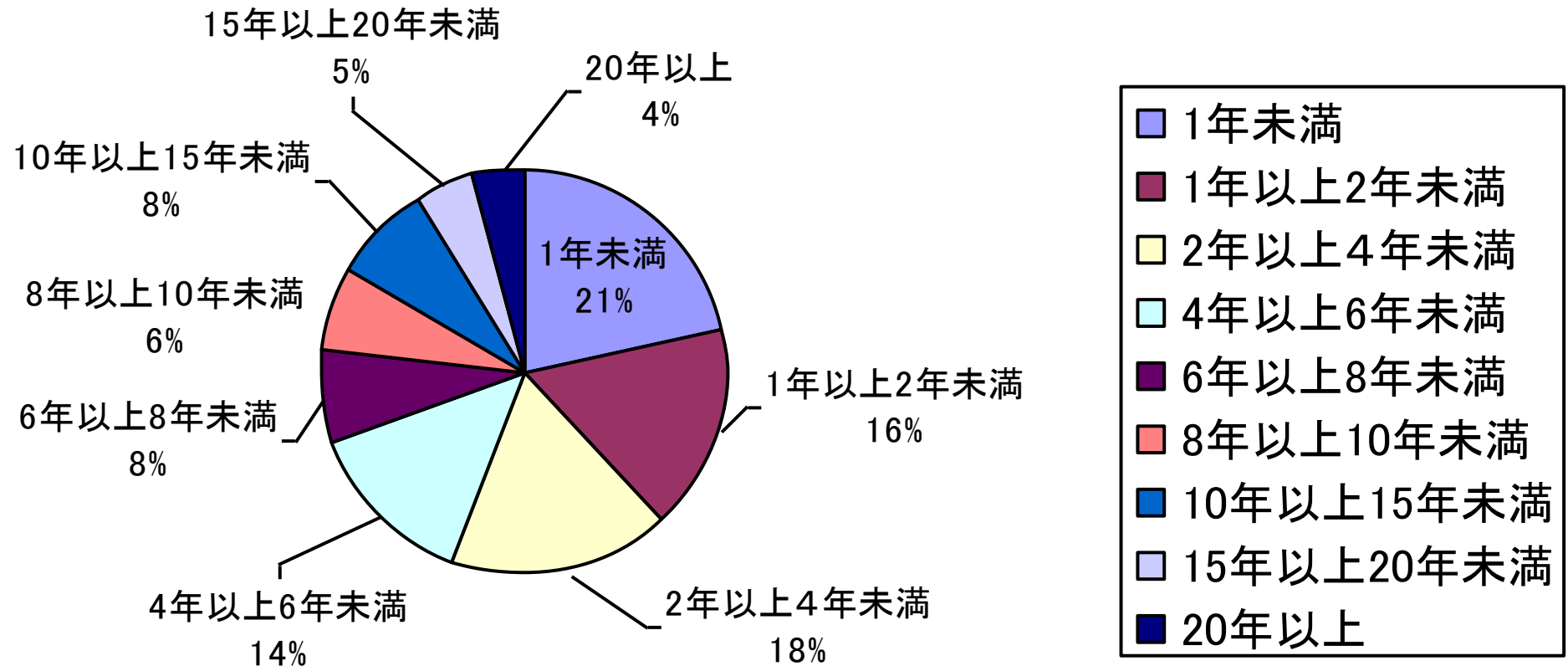
NG

職場環境: ロールモデルがない

「燃え尽き」に要注意

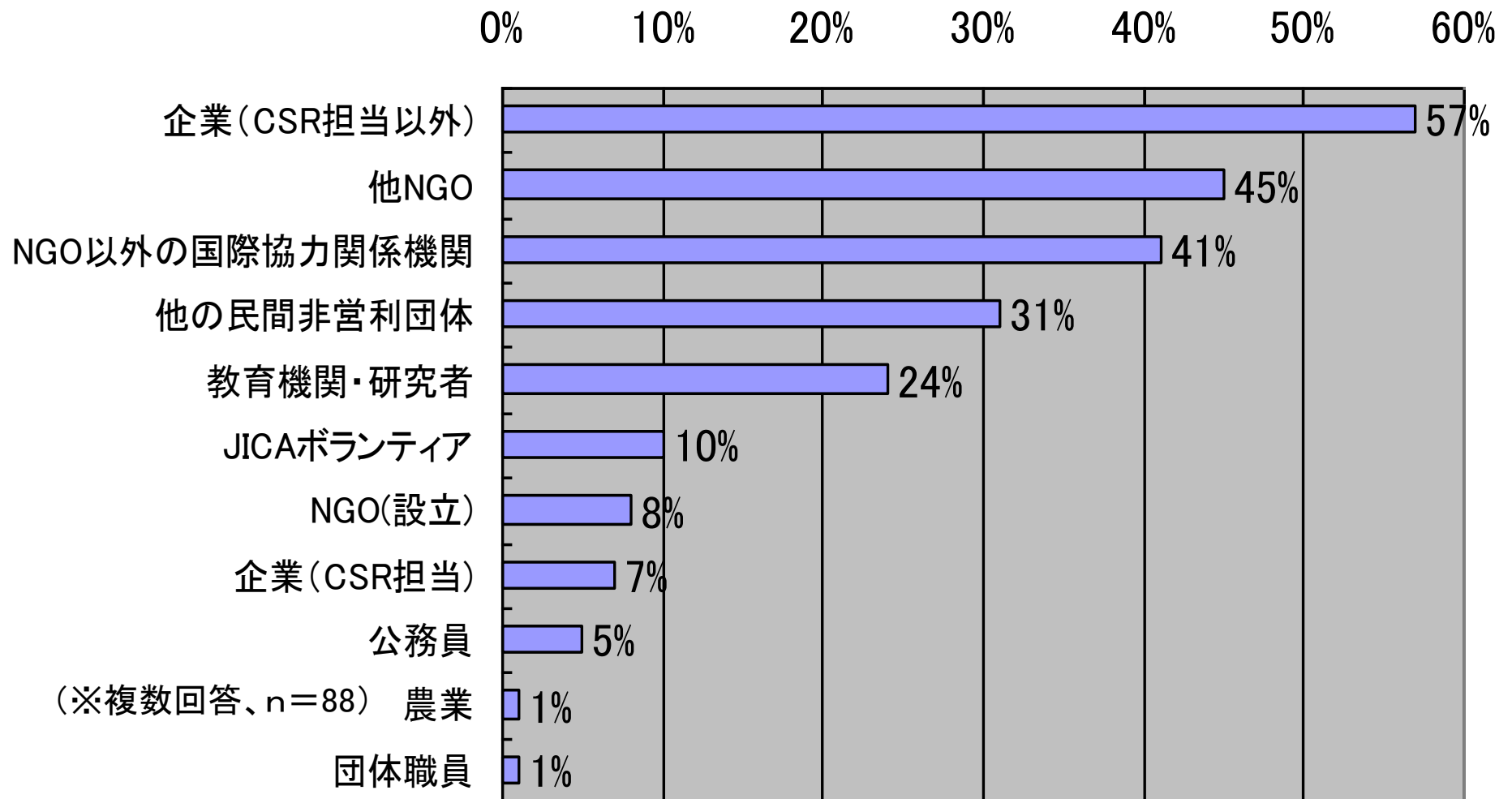
自己満足・甘え

NGOで働くとは ③NGOで働く良い点・悪い点：勤続年数



出典：『NGOデータブック2011』

NGOで働くとは ③NGOで働く良い点・悪い点：転職先



NGOで働くとは なぜ？ 何をしたい？

- ◆なぜ**社会貢献を仕事に**したいのですか？
- ◆なぜ**国際協力**なのですか？
- ◆なぜ**NGO**なのですか？
- ◆なぜ〇〇**団体**なのですか？
- ◆〇〇**団体で何がしたい**のですか？
- ◆〇〇**団体に何で貢献**できますか？



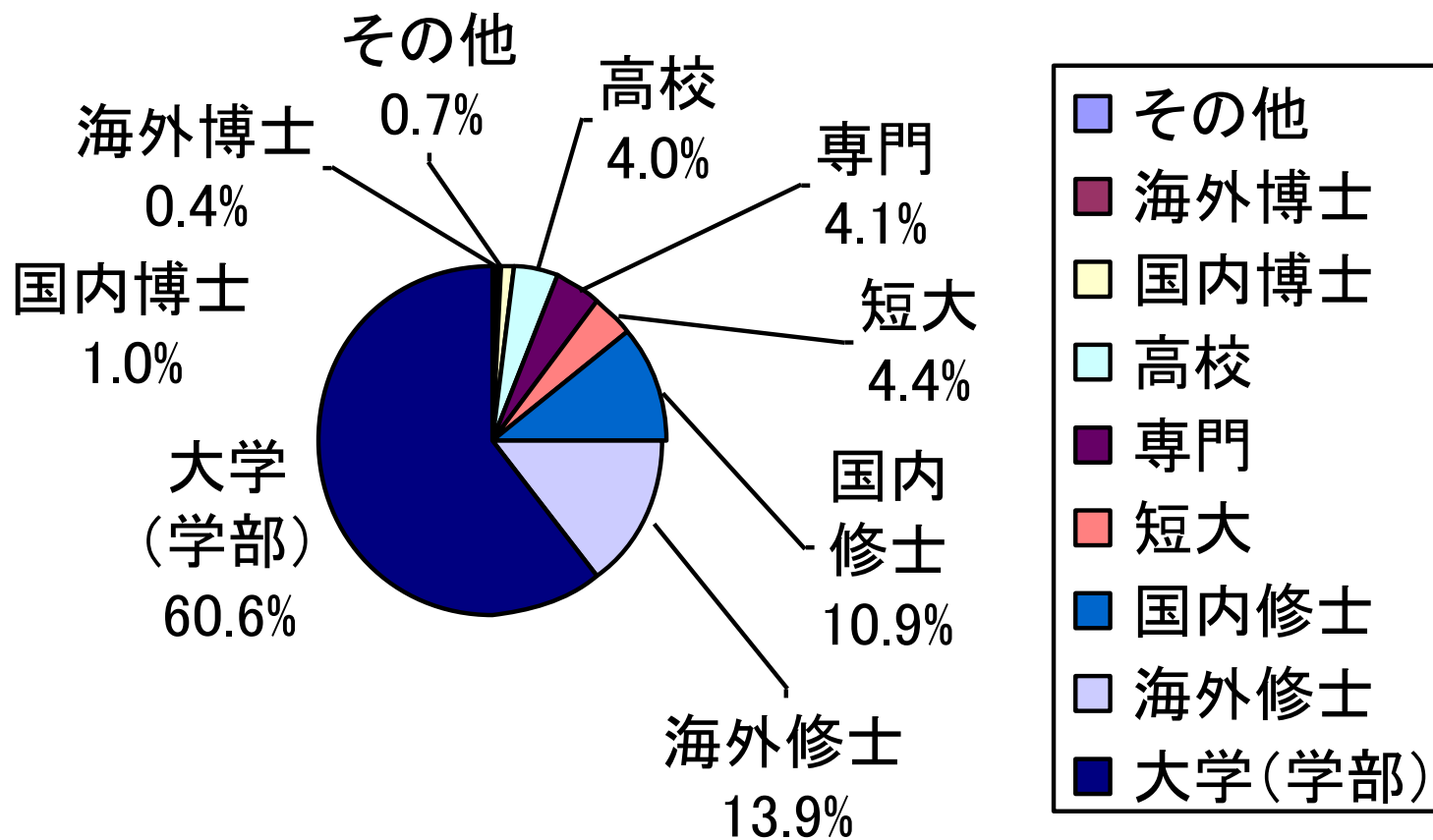
2 日本のNGOの能力強化

- ① 日本のNGOの強み・弱み
- ② 日本のNGOの能力強化

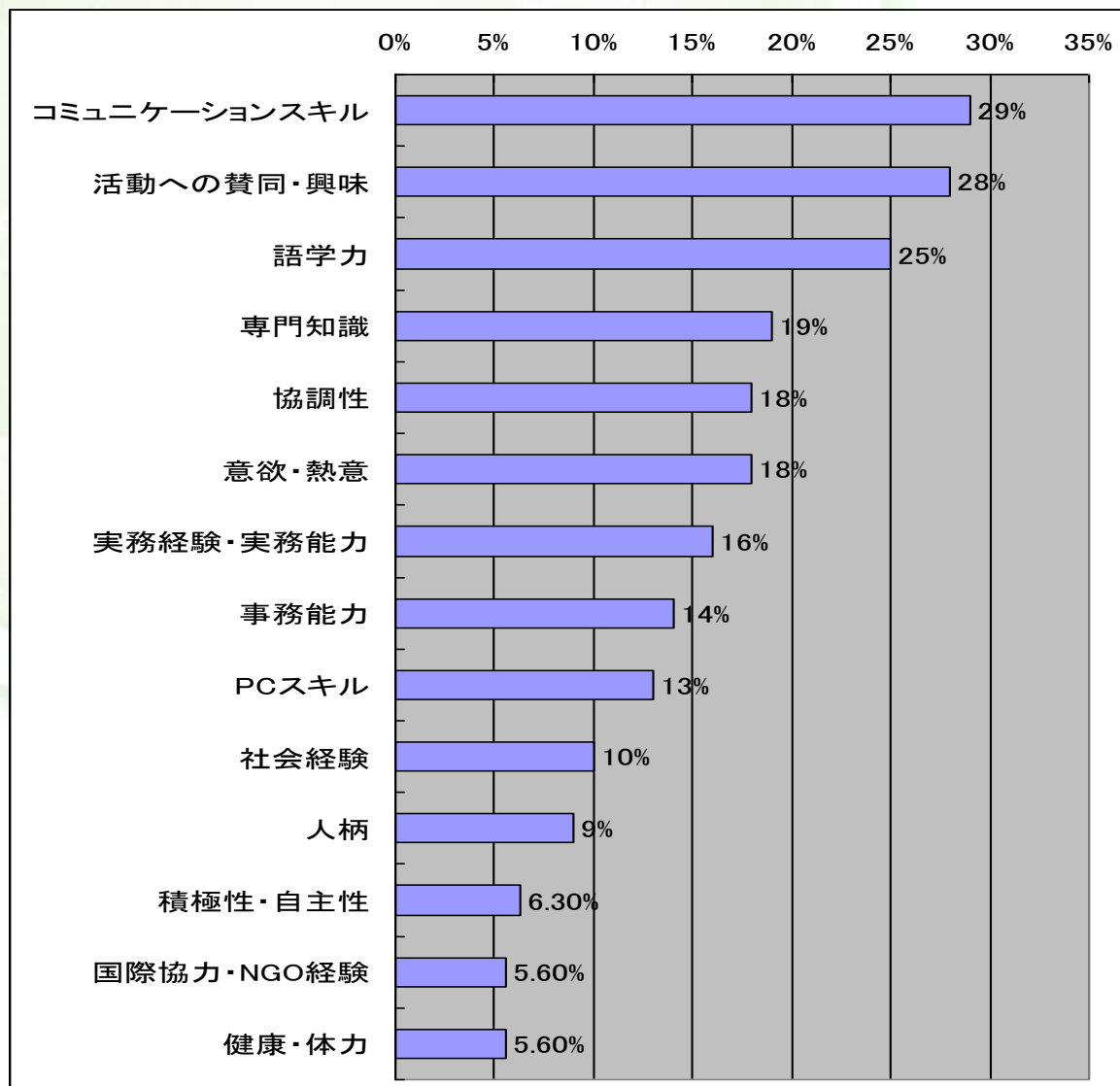
NGOの職種

- ◆ 経営
- ◆ マネジメント
- ◆ 海外/国内プロジェクト・マネージメント
- ◆ NGO/NPOマーケティング
- ◆ 管理
- ◆ 広報
- ◆ 資金調達
- ◆ セミナー/報告会/シンポジウム/キャンペーン
- ◆ アドボカシー
- ◆ 販売/収益事業
- ◆ 専門職

日本NGOの有給スタッフの学歴



選考基準（国内職員）



1. コミュニケーションスキル

- ・ ボランティアや他のNGO,多くの人と一緒に活動する機会が多いため

2. 活動への賛同

- ・ 理念や価値、方向性が共有できなければ共に活動することは難しい

3. 実務経験

- ・ 即戦力でないと困る。
教育している暇がない

海外職員の場合は

語学力、健康・体力、

専門知識・コミュニケーションスキルが上位を占める

（※複数回答、n=125）

日本のNGOの能力強化 ①日本のNGOの強み/弱み

<強み>

- ✓「アジア人」として価値観を共有しやすい(と思ってもらえる可能性が高い)
- ✓宗教色が薄いため受け入れ側の警戒が少ない(のでは)
- ✓活動地の文化、言語を理解しようとする意識が高い
- ✓活動地の人々の需要を拾おうとする姿勢が強い
- ✓アフリカ・中南米では過去の植民地の歴史がないため受け入れられやすい

<弱み>

- ✓社会的認知度・理解度が低い
- ✓資金力が弱い
- ✓活動規模が小さい
- ✓マネジメント力が弱い
- ✓長期的計画、評価が不十分
- ✓グローバルスタンダードに達していない



教育支援活動(HFW)

日本のNGOの能力強化 ②JANICの取り組み方針

国際協力NGOが市民社会の支持と参加を得て
ミッションを達成できる活動体となるために、

1) NGOの能力強化

2) NGOの社会的責任向上

日本のNGOの能力強化 ②JANICの取り組みの歩み

【1980年代】

海外からの学びと基礎的手法の確立

【1990年代】

組織運営基盤整備、スタッフ育成の取り組みの本格化

例：会計講座、リーダーシップ研修、NGO-JICA相互



【2000年代】

複数年計画に基づく、開発プロフェッショナルとしての個人/組織の能力向上へ

例：海外研修、危機管理・安全管理研修

【2010年代】

計画的・戦略的な組織強化、人材育成に向けた研修枠組み/体制づくり

NGO能力強化の課題（2005年調査時点）

大手NGOと中小NGO間の 格差の拡大

- ・ 約300のNGOのうち67%が年間予算3000万円以下。
- ・ 上位団体10団体の収支規模が全収支規模の半分以上（57%）を占める。

NGOスタッフが 研修にいけない

- ・ 時間的・人力的な余裕がない。全体の56%
- ・ 東京で開催される研修に参加する交通費がない。
- ・ 多くのNGOは人材育成計画を持たない。

能力強化の 必要性を感じない

- ・ 経営層の問題意識が低い。
- ・ 団体が組織全体で課題を振り返る時間がない。
- ・ 相談できる人がいない。
- ・ スタッフの流動性が高い。2年未満が36%、4年未満56%

変化は一夜にして成らず

- ・ 一回の研修では組織は変わらない。
- ・ 一人の力では組織を変えられない。
- ・ 一年で組織は変わらない。

日本のNGOの能力強化 ② 枠組み/体制づくり

民間企業、政府、自治体、海外NGO、国内のNPO/NGOとの
連携促進

👉 別紙参照



日本のNGOの能力強化 ②社会的責任の向上

NGOには
責任があります

誰に？

どんな？

どのように実行？

NGO

支援を受ける人

支援を受ける人の視点を持
った責任ある活動

国際的行動規範に
基づく活動

⇒国際基準

NGOの支援者

- ・組織・活動を
わかりやすく開示
- ・組織の健全な運営
- ・安定した活動の維持
- ・改善への取り組み

自己チェック

⇒アカウンタビリティ
・セルフチェック
(ASC)

NGOの活動
パートナー

活動成果を最大化する
ための情報共有協力・調整

日本のNGOの能力強化 ②社会的責任の向上

ASCの目的

日本のNGOが、市民から信頼される組織として発展するために、組織強化のための自己診断ツールとして活用されることを目的としています。



Accountability Self-Check 2012

ASCは、

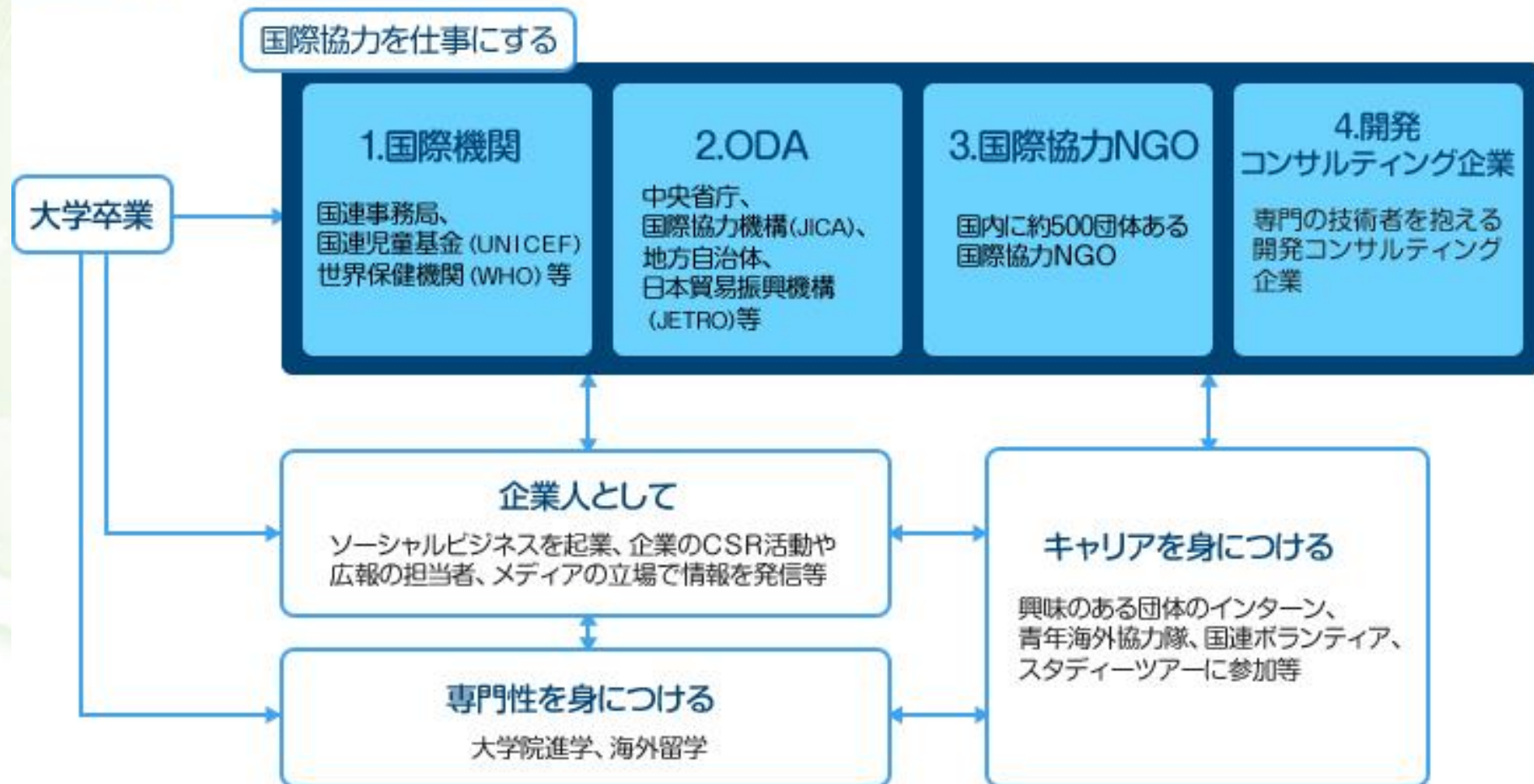
1. NGOが、アカウンタビリティの状態を定期的に自己診断するツールです。
2. 国際的な基準を参考に、日本の事情や法令を加味して作成された、4分野41のチェック項目からできています。
3. NGOによる組織体制の確認や改善の取組みを公表する制度です。

おわりに



**一緒に活動や仕事ができることを
楽しみにしています。**

国際協力のシゴト早わかり表



※「国際協力ガイド」(発行:(株)国際開発ジャーナル社)をもとに「なんとかしなきゃ!プロジェクト」事務局が作成
「なんとかしなきゃ!プロジェクト」http://nantokashinakya.jp/references/episode/job_activities/

➤ 国際協力への道は多種・多様

企業

公務員

プロボノ
ボランティア

社会貢献事業/CSR
コンプライアンス
サプライチェーン管理
フェアトレード
BOP
環境保護、人権尊重…

医療
獣医
保健衛生
社会福祉

行政
都市計画
公共・公益
環境

教育・文化
教師
保育
スポーツ

農・家畜
森林
水産
鉱工
土木・建
築
港湾

法務
財務・会計

食品
栄養

IT
電気・電子
機械工学

メディア
映像・編集
放送

縫製
陶芸

商業・観光
金融

その他

NGOに関する情報収集

- ▶ 各団体のウェブ、ニュースレター
- ▶ JANICの情報掲示板 <http://www.janic.org/janicboard/>
- ▶ JANICのメルマガ「国際協力NGOナビ」
<http://www.janic.org/mailmagazine/index.php>
- ▶ JICA PARTNER <http://partner.jica.go.jp/>
- ▶ 関心のあるNGOの活動に参加
→ 口コミ・内部情報の入手がし易くなる



地球 × 未来、あなたと今できること。

www.janic.org